

# 学校法人 滋慶学園 札幌ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果及び改善方策

学校法人 滋慶学園 札幌ベルエポック美容専門学校

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

委員会開催:2020年7月21日(火)

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(課題・特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		非常に良い …5 良い …4 適切である …3 課題がある …2 改善が必要 …1			非常に良い …5 良い …4 適切である …3 課題がある …2 改善が必要 …1	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	5	実学・人間・国際教育の「建学の理念」及び、「4つの信頼」として学生・保護者、高等学校、業界、地域の4つの対象者からの信頼獲得を目指しており、周知方法として、学外に向けては学校案内等、学生へは教育指導要領に明記して周知を図っている。		5	○3つの見学の理念、産学連携としっかり理念に基づき学生を育成していると思います。 ○新しいこと、若者のニーズを捉えていることは素晴らしい。 ○本質的に人が成長する、能力が伸ばせる強みを更に強化することでベルらしさがもっと出るのではないかと。
	1-2 育人人材像は、業界などの人材ニーズに適合しているか	5	関連業界との協同教育(現場実習)を実践し、人材ニーズに合致したカリキュラムを構築している。教育課程編成委員会を年2回開催し、業界からカリキュラムへの提言を受けている。		4.6	
	1-3 特色ある教育活動に取り組んでいるか	5	企業と連携した現場実習、学生サロンなどの体験型学習が本校の特長であり、年々強化している。		4.6	
	1-4 学校の将来構想を抱いているか	5	学校運営の計画については、5年先を見据えた計画(5カ年計画)のもと、単年度の事業計画を策定している。		4.4	
2 学校運営	2-1 運営方針は定められているか	5	事業計画に基づき、運営方針を文書化し「理念」「目標」「計画」について明確に文書化し、周知、浸透の機会を常に設けている。 ・文書としての配布 ・勉強会の実施 ・全体研修での周知と理解度確認を実施。		4.8	○しっかりした組織体制になっている。 ○より良い学校運営のために研鑽していると思う。
	2-2 事業計画は定められているか	5	・中期計画(3～5年程度)を定め周知のための勉強会も設定している。 ・中期計画からブレイクダウンした単年度計画も明確に定められている。 ・事業計画に予算、事業目標等を数値で明示。 ・事業計画の執行体制においては、「組織役割表」設定し明確化している。 ・執行・進捗管理状況は予算においては「毎月」、事業計画においては「半年」を目安に見直しの機会を設けている。		5	
	2-3 設置法人は組織運営を適切に行っているか	5	・理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催している。 ・理事会、評議員会共に必要な審議と議事録の作成がなされている。 ・寄附行為は、必要に応じて改定の機会が設けられている。		4.8	
	2-4 学校運営のための組織を整備しているか	5	学校運営に必要な組織体系を整備し、それぞれの部署で役割の明確化もなされている。事業計画にこの役割表は明示され、全教職員に周知している。また、職階ごとの研修を組んで研鑽している。		5	
	2-5 人事・給与に関する制度は整備されているか	5	すべて就業規則に明記されている。また採用計画と人材育成のための研修については、システムとして確立され有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた評価や賞金決定、人事が行われている。		5	
	2-6 意思決定システムは確立されているか	5	・教務においては学校長が主催する進級・卒業判定会議にて意思決定する。 ・財務等の事務処理においては事務局長の決済のもと意思決定がなされている。 ・組織図と職務分掌において規定されている。		4.6	
	2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化が図れている。学生の出欠管理はipadを活用したシステムが導入されている。		5	

3 教育活動	3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	年度後半に当該年度を検証し、教育課程編成委員会のご意見を加味して次年度の新しいカリキュラムに反映させている。	業界と想いを共有し、発展させる上で学生をどう養成していくかの視点で活発な意見交換が重要。また行事を共に実施するなど仕掛け創りが課題。	4.2	○教育活動において、新しいカリキュラムを取り入れ、適正に実施していると思えます。 ○資格取得のサポートは素晴らしい。
	3-2 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	5	・教育目標に照らし合わせて設定している ・資格免許の担当教員を選任し入学段階よりフロー教育プログラムにしている ・国家試験合格に向けて、1年次からのAL型授業の実施により、筆記に対する興味は持たせられた	到達レベルの見直しは、その時々々の学生を見て、講師の授業運営も確認しながら進めていく必要がある。特にAL型の授業を主流とする運営が出来ているか、受け手の学生の様子をよく観察する習慣をつけることが課題。	4.6	
	3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	・各学科各学期ごとに到達目標を設定 ・教育目標に照らし合わせて設定している ・資格免許の担当教員を選任し入学段階よりフロー教育プログラムにしている ・資格取得のための対策講座と補習プログラムを確立している		4.8	
	3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4	・翌年の教育課程編成する際に学科長がカリキュラムプレゼンを学校責任者に実施している。 ・教員・時間数は法定要件を満たした上で一般科目をバランス良く配分している。 ・教育課程に明記 ・目標に沿ってその分野のスペシャリストである講師がシラバスを作成し授業を運営。 ・到達目標の設定に基づき適切に授業携帯を選択している ・授業内容に適切にグループワークなどを取り入れて指導方法に変化を持たせている		5	
	3-5 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	4	・キャリア教育の定義である、入学前→在学中→卒業後のキャリア形成からキャリア開発へのフローで教育体系が作られている。 例えば入学前も本校では「入学前教育」と定義してオープンキャンパスを通じて受験生の「勤労観」「職業観」を育んでいる。	・人間教育と直結するので、働く意義と併せて担任中心に授業内に入れ込んでいるが、目に見えた効果が出ていない。 「あいさつ」においても高いレベルを目指していく必要がある。	5	
	3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	・授業アンケートを実施し、その都度担当講師にフィードバックを実施している。その他、学生から上がった声を日置かず講師にFBしている。 ・授業の集大成としての位置づけである、ベルエポックコンテストの他に、学内コンテスト等で業界プロにも審査し、一人ひとりにフィードバックして頂いている。	・学生から上がった声を受け取る講師の価値観の差が広がっている	5	
	3-7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5	・法定科目はコンプライアンスに沿って、一般科目は経験と教授能力で選任している。 ・履歴書・資格書の提出を持って確認している。 ・業界での経験を重視し適合しているかを確認している。 ・業界講師や業界に人材の紹介を依頼している。 ・10月より次年度に向けての配置計画を行っている。 ・業務役割分担と講師時間割にて把握している		4.8	
	3-8 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4	・経験の浅い教員向けの研修を施しマインド・スキル・フォローアップの3点の研修を行っている ・業界団体の研修やJESC研修などに年に複数回の研修をしている ・学内での教務研修は公開授業形式で実施	・学内でのFD活動の機会として「学内教務研修公開授業」の実施回数不足。	4.6	
	3-9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	・学則及び学則施行細則にて明記し全学生に配布している。 ・試験規定を作成しその基準に準拠し公正公平に評価している。また、進級や卒業については判定会議を実施している。 ・学則に単位読み替えについて明分化している。	・成績基準を明確にする一方で、長期履修が必要な学生が増えてきている。そのシステムをより解りやすく整備することが課題	4.8	
	3-10 資格取得の指導体制はあるか	5	資格取得のための指導体制はシステム化できており、国家資格である美容師試験に関しては、独自問題集及び模擬試験の作成と活用、低学力者対策など、きめ細かい支援が整っている。万が一不合格になった場合のサポート制度も整備しており、昨年度は前年の不合格者全員を合格に導いた。		5	

4 教育成果	4-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職目標を設定している</li> <li>・就職活動状況表にてリアルタイムに把握している</li> <li>・第一専門職の業界とは常に情報共有し就職状況を把握している</li> <li>・業界団体のセミナーや本校主催のセミナーなどを実施している</li> <li>・月に1回数値データとして管理している</li> </ul>		4.8	<p>○継続的に学校—学生(卒業生)—業界が一緒になってサポートしコミュニケーションを取っていく必要があると思う。</p> <p>○教育活動の成果として、就職率もよく、就職後のフォロー体制も取られている。</p>
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得目標を設定している</li> <li>・必修資格はカリキュラムに対策講座を組み込み、選択資格は放課後に対策授業を実施している</li> <li>・全国と北海道どちらも比較を行っており国家試験は全国でもトップクラスの合格率である</li> <li>・国家試験対策会議を定例で実施し改善を図りながら指導している</li> </ul>	総ての資格合格率は非常に高いが、国家試験における筆記試験の「低学力者対策」に課題が残る。	4.4	
	4-3 退学率の低減が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中途退学者の傾向・分析を毎年総括している</li> <li>・キャリアサポートアンケートの結果と入学前の情報をまとめ見える化。しっかりと把握し、学生対応に当たっている。</li> <li>・指導履歴や学生状況の流れが一目でわかる面談記録をとり、誰でも対応できるようにしている。</li> <li>・SSCとの連携で学習面・精神面での適切な支援ができる体制をとっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の適切な対応力の強化</li> <li>・ついていけない学生への受け皿が出来あがっておらず、後手後手になっている</li> </ul>	4.4	
	4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職先訪問や業界授業等に卒業生が来ることが多く、仕事の状況等をヒアリングしている。離職はあるものの、スタイリストや店長になる卒業生も増加している。</li> <li>・コンテストの出場・受賞状況は常に把握できている</li> </ul>	卒後1年以内の離職率が10%台であり、本校の大きな課題である。	3.8	
5 学生支援	5-1 就職に関する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアセンターを中心に卒業年次生担任との連携以上に、マネージャーを巻き込んで学校全体で就職支援をしている</li> <li>・共通のファイルで常に閲覧可能な状態である</li> <li>・就職決意式・グループディスカッションを開催している</li> <li>・就職講座と個別指導で実践している</li> <li>・個別面談や面接練習、履歴書指導は随時行っており適切に対応している</li> </ul>	キャリアセンターと卒業年次担任だけの連携では、トップサロンや第一希望への内定は難しい。役割を超えた全員の関わりを持てる仕組みづくりが課題。	4.4	<p>○卒業後の就職先へのサポートがしっかりしていて、卒業生からすると関心感があると思います。</p>
	5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学内にSSCを開設し支援体制を構築している</li> <li>□計画的にSSCの学生への案内活動を行い利用しやすい環境を構築している。</li> <li>□相談記録は閲覧を制限する形で保存している</li> <li>・カウンセラーの見立てによって適宜促しをしている</li> <li>・卒業生にも必要に応じて対応している</li> </ul>		5	
	5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	学生サービスセンターという専門部署を設けて学費相談を行なっている。家計の急変時には適宜支援している。公的奨学金を適切に活用し、保護者との連携も取れている。	課題としては、卒業生の奨学金未返還者が多くいることであり、返還率向上のために卒業後の離職防止を含めた対策立案と実行が今後の課題となっている。	5	
	5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	「スチューデントサービスセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。また、一人暮らしをする学生については、希望者には学生寮が完備されており、寮長寮母が親代わりで生活面もケアしてくれている。学校と連携を取り、学生の変化などには細かい部分まで気を配り対応している。		5	
	5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	5	平成30年度はバスケ部が活動したが、その他は主な部活等は設置していない。		4.6	
	5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	一人暮らし学生のための学生寮も完備されており、生活環境への支援は十分できていると考えている。特に、学生寮には寮長、寮母が常駐しており、急な病気や怪我などの際には保護者代わりとして対応して貰っている。		4.8	
	5-7 保護者と適切に連携しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会を実施するとともに計画的に保護者便りを送付している。</li> <li>・学生の学力支援・心理支援双方において保護者に開示し協力体制の構築に努めている</li> <li>・緊急連絡先(自宅・携帯・勤務先)をファイルしている</li> </ul>	・家族関係と学費、学生のモチベーションは関連が大いにあるが、心配学生の保護者とのつながりをうまく持てない点。	4.6	

	5-8 卒業生への支援体制はあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会を組織し、活動状況の履歴を残している</li> <li>・卒業生への就職相談に常に応じている</li> <li>・コンテスト対策などの支援を行っている</li> </ul>	卒業後1年以内の離職0名を目指しているなかでまだ課題が残る。	4.6	
6 教育環境	6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備は毎年整備し且つ法令も遵守している</li> <li>・実習機材器具についても整備している</li> <li>・休憩の学生ホールを整備している</li> <li>・手すりや段差の少ない構造にしている</li> <li>・卒業生にも希望に応じて施設を貸し出している</li> <li>・施設設備の点検は専門の業者に委託している</li> <li>・年度毎に不具合箇所を洗い出し改築・改修を行っている</li> </ul>	エステ実習室などの機器、図書室内の図書の更新に課題があるので、予算を確保し随時進めていく。	4.6	
	6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・就職スケジュールの中で重要性や意義・目的を明確にしている</li> <li>・企画書・実習ノートを整備し適切に運用している</li> <li>・企業連携こそが本校の教育の柱と位置づけ、力を入れている。</li> <li>・現場力育成の定義に則り5段階で評価していただき、規定日数の実習実施と報告書の提出を持って評価している</li> <li>・各実習先に担当の教職員が引率したり実習期間中に訪問している。</li> <li>・評価表と実習日誌の表記内容を確認し教育効果を確認している</li> <li>・学生が自ら考える機会を考慮し行事に参画させている</li> <li>・目的に沿って対象を吟味し案内している</li> </ul>	・海外研修は入学当初から募集をしているが年々縮小傾向であり、30年度は13名の参加となった。	4.6	
	6-3 防災に対する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学園より学生・職員に対しての防災マニュアルの配布し施設内に避難誘導整備を行っている。</li> <li>□耐震構造の建物である定期的に点検し改善を行っている</li> <li>□避難訓練とAED研修を年1回消防の立会いのもと実施している</li> <li>□ロッカーの転倒・滑り止めの対策を行っている</li> <li>□学生・教職員に防災訓練と教育を実施している</li> <li>□学校の安全計画と緊急時の対応方法を確立し整備している</li> <li>□学校校門のセキュリティを万全にしている。</li> <li>□整備しており事故後はその報告を所定のフォーマットにて報告し適切に対応しているかチェックしている</li> </ul>	□北海道胆振東部地震の際は、学校が2日間停電し、7日間休講とした。停電に対応できる設備がないため、今後整備していく。	4.6	
7 学生の募集と受け入れ	7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	5	本校は、北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルール及び学則を基に、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、受験生ならびに保護者目線に立った学校選びのためのサポート(奨学金、特待生、交通費補助制度等)に関しても、充実していると考えている。		5	
	7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	産学連携・姉妹校連携を軸とした教育を、パンフレット・映像・SNSで効果的に発信できていると考えている。		5	
	7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	学則を基準とし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。合否判定は、入学選考日に実施する「入学者選考委員会」にて公正に判定されている。		5	
	7-4 学納金は適正なものとなっているか	5	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開体制を取っており、学納金が公正に使われているかを公表している。		5	

○学生募集は業界のなり手を増やすという意味にもつながります。  
○学生募集についての工夫がなされていると思います。

8 財務	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。		4.6	
	8-2 主要な財務数値に関する分析を行っているか	5	キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく、施設設備支出、借入金返済などを考慮した資金収支の予算も作成している。また数字は1ヶ月ごとにチェックしており、適正な予算管理が実行されている。		4.6	
	8-3 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	5	事業計画は5ヵ年単位で作成しており、教育目標との整合性はもちろん、市場ニーズ、業界ニーズも含めて検討し作成している。とりわけ教育内容充実に向けては最優先事項として取組んでいる。		4.8	
	8-4 予算計画に基づいた適正な執行管理ができていますか	3	主に事務局長が予算立案・管理を行なっているが、今年度は当初に立てた予算に対して100%の消化率であった。しかしまだまだ効率運営には課題が多い。	部署ごとに支出予算を算出して単体で管理できるようにしていく。抜本的な学校全体でのイノベーション(単位制の導入など)を図っていく。	4.4	
	8-5 私立学校法および寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか	5	公認会計士による監査と監事による監査を実施し、結果を監査報告として理事会、評議員会に提出している。		4.4	
	8-6 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	5	財務情報公開規程および情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備しておりHPにて公開している。		4.8	
9 法令等の遵守	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5	法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは整備されている。定期的に行なわれる厚生労働省等による監査もクリアしている。 また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。		5	
	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5	平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(=研修、制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。外部機関の「TRUST-e」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。また、TRUST-eより年に一度研修を受けている。		5	
	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	自己点検・自己評価に関しては、開校以来、毎年度末に事業計画に基づいた総括を実施し、収支バランスや、教育力、就職力、広報力について数字結果から点検を実施し、問題発見できたことは、次年度の課題として引継ぎ、その課題を克服する事業計画を作成し、その改善に努めて来た。その積み重ねの結果が、受験生、保護者、高等学校からの信頼として徐々に形になりつつあると考える。		5	
	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	5	自己点検・自己評価の情報公開については、学校ホームページに「情報公開」というページを作り、公開している。		5	
	9-5 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	5	職業実践専門課程の認定を受けるべく、昨年度から実施を行った。しかしながら、遡って更にその3年前に『第三者評価』を受けた際にも、同様の項目でこれに近いことを整備していたため、学校関係者評価の目的や意義については十分に理解している。		5	
	9-6 学校関係者評価を公開しているか	5	評価の結果をまとめ、HPにも公表している。		5	
	9-7 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	5	HP上でもそうだが、学校案内に分かり易く写真も掲載して教育内容を紹介している。		5	



10 社会貢献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5	地域清掃や学生サロンを通じて地域への貢献を行ない、業界に対しては各種検定試験の会場貸し、卒業生に対しては就職情報の提供を通じて貢献を行なっている。	2018年9月の北海道胆振東部地震の際は学校で職員有志によるシャンプーボランティアを実施した。	5	○地域清掃をはじめ、地域との関わりを継続的にしていて素晴らしいと思います。
	10-2 国際交流に取り組んでいるか	5	建学理念の一つに『国際教育』を掲げており、学園を上げて国際交流に取り組んでいる。カリキュラムにも反映させ、留学生の受入れも積極的に実施している。（現在留学生が1名在籍中）		5	
	10-3 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	授業を通じて老人保健施設へのメイクボランティアなどの活動を支援している。また学内に盲導犬協会の募金箱、大規模災害発生時には募金箱を設置するなどの支援体制を作っている。		5	

#### 全体を通しての委員からの意見

○退学率が高まっているのは残念に感じるが、卒業生は年代によっても大きく違い、今のこの状況がどういった結果につながっていくか。今の若い人材は「早くスタイリストになりたい」＝「はやく稼ぎたい」という焦りを感じているのではないかと思われる。美容師の給与は不透明な部分もあるので、具体例を示し教育することで、離職も減らせるのではないかと考える。美容師の仕事の楽しさ(やりがいや稼げる環境など)をもっと伝える必要がある。

○経済を含めた時事問題を、ファッションの学校では実施している。コロナやGoToキャンペーンなどの時事問題を取り扱い、これまでのやり方ではなく働き方改革(インスタグラムを代表とするSNSの活用など)について考える時間を設けている。自分なりの中かができるのではないかと、ということも授業の中で行うことも必要なのではないかと感じる。Youtubeなどのいいところはいつでも・どこでも・何度でも見ることができること。これはこれまでの対面授業では実施できなかったことなので、今後活用していくといいと思う。

○コロナ禍において、ヘアメイク業界は、東京と地方の格差が大きく(東京に現場が集中している)就職に影響を与えている。美容師をやりながらヘアメイクをやるという働き方を知らない学生が多いので、そういった選択肢があることを伝えていくことが必要。フリーのヘアメイクアシスタントについては、一般企業と違い4月採用と決まっているものではなく、アシスタントに欠員が出ると募集するなどの状況である。また、ヘアメイクの知識技術だけではなく税金のことや働き方(正社員としての働き方や個人事業主としての働き方など)も授業で学生に伝えていくことも必要だと感じている。

○美容業界・エンターテイメント業界は若い世代から見ると華やかな世界に見える。しかし、実際には泥臭い部分も多く、しっかり気持ちをもって入らないと乗り越えられない部分もある。技術も大切だが、精神的な部分の教育(厳しい部分も見せる)を行っていくことができるといいと思う。それぞれの業界とのコラボレーションで相乗効果を期待したい。

#### 改善方策

学校としては委員の皆様からの意見をもとに、スピード感をもとに取り組んでいく。新たなチャレンジを続けて成長し、業界・地域・卒業生にできることはなにかを考えて行動していくためのプロジェクトや委員会を発足する。

##### ○産学連携プロジェクト

学校の特徴である業界と連携した「トップサロンゼミ」や「アシスタントプログラム」の新規業界開拓と学科カリキュラムへの導入を行う

##### ○ICT教育推進プロジェクト

年開を通した遠隔授業の有効活用と学習効果について検証する

##### ○就職支援プロジェクト

札幌就職・東京就職・ヘアメイクアシスタント就職などカテゴリ別の支援体制を整える